

## 行事報告☆☆☆

### ◆「書初めを書こう」開催しました

令和4年12月27日(火)9:30~11:30参加者3家族8名  
浜野会館で5人の子供と楽しく、上達の見られた作品が仕上がりました。

年中行事として日本の風習である「書初め」は小学校の冬休みの宿題の定番となっています。ところが全員提出という義務付けられたものではなく「書きたい人は書いて書初め公募展の出品料を添えて提出」というところが多くなったようです。こんなことでいいのでしょうか?「一年の計は元旦にあり」という言葉は死語になってしまったのでしょうか?

「お年玉」は健在のようで、私は毎年手渡していますが…(白井・記)

<・・・お年玉渡す時だけ輪の中心 (脳トレ川柳・読売新聞より)・・・>

### 賛助会員募集

◆本会の趣旨に賛同していただける方のご協力をお願いします。  
年4回発行の、この機関誌をお届けしています。

◆年会費3千円のご支援(寄付)を民具の修理や活動費に充てています。

◆旧役場の当番だけのご協力もご相談に応じ募集しています。

●お問い合わせは

旧生浜町役場庁舎

☎043-265-881

6 火・木・土 9時3

0分~16時00又は

☎080-5387-25

92(伝言可)



本会の紹介をしているホームページにつながります。まだ未完部分が多いのですが今後補充をしております。また、「生浜歴史調査会」で検索していただくと千葉市文化財課のページなども見ることができます。<https://sites.google.com/view/oireki>

## 「海と浜野の歴史」

### —海苔養殖—

### —浜野・村田・塩田には海岸

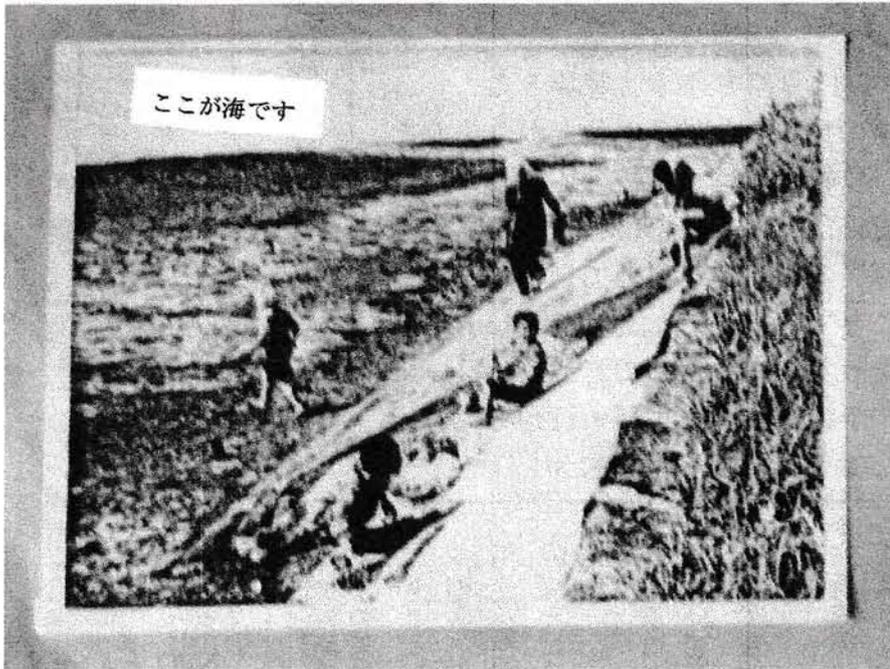
### があった—

浜野・村田・塩田には海岸があった。そこで海水浴を体験した、それを知っている生浜の住民は、今は60歳以上の者だけになった。

そこは東京湾である。



家族の絶好の遊び場 海



「海が見られた」  
 「海で泳いだ」  
 「潮干狩りができた」  
 「海苔の養殖がおこなわれていた」

現在(いま)その海岸線は京葉工業地帯と化してしまっていて、「海を見ることはできない」「海を知る住民はいなくなり、忘れ去られてしまうのか…」

当時の海水浴といっても「海の家」があったり、整備された海岸線ではなかった。生活のための浜が昔からあった。

現在の生浜高校前の道路から先は田んぼや湿地帯が50メートルくらい続きその先が浜になっていた。田んぼのところどころには真水の湧水があり美味しかった。塩田から浜野・村田に海岸線は続いていた。海水浴は自宅から水着に着替えて歩いて浜へ・・・、潮が満ちてくると、湧き水で足を洗って帰宅した。

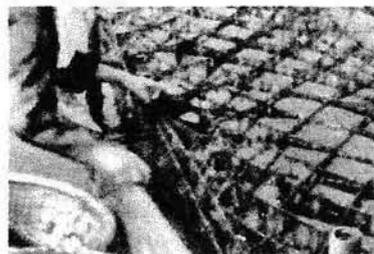
遠浅の海には「引き潮と上げ潮」という現象があった。どちらも子供心には驚くほど速くて、強い力がかかっていた。刻々と潮が引いていく時は、かかとの下の砂ごと沖にもっていかれる。刻々と潮が満ちてくる時は引いた時にもっていった草や枯れ木などを戻してくる。それを「上げ潮のごみ」とも称していた。

「早く上がれよ」「ミヨには近づくなよ」と大人たちの注意喚起は誰彼かまわず子供たちへの呼び掛けであった。

夏の夕涼みがてら夕日を見に海岸に出かける。沖には帆を張った漁師の船が右方向へ進む。「検見川の漁師の船だ」と大人が教えてくれた。

半農半漁で生計を立てていた生浜の浜野・村田・塩田は昭和35年まではそんな風景だった。今はそんな風景はどこにもない。海の潮風すら感じない。「へえー、信じらない」と若者は言う。

旧生浜町場庁舎にはそのころの「海苔養殖」の様子が動画で公開されています。海苔網を編むところから、竹の棒立てから、海苔取り、海苔漉き、天日干し、換金するところまでがリアルに残されています。



観光ポスター



千葉の海岸は  
「潮干狩り」「海水浴」の  
お客でにぎわっていた。

無縁寺心澄・作  
(房総ゆかりの作家のひとりである  
本名・藤井茂樹 1905～1945)

生浜ではいつから「海苔養殖」  
が始まったのか？  
いつから海がなくなったのか？  
その経緯を紐解いて  
みましょう。

以下、

「君津市漁業資料館」利用のしおり、からの抜粋です。

君津の海でとれたノリは「上総(かずさ)ノリ」と呼ばれ、江戸でも人気となりたくさん売れた。

◆徳川第10代将軍・家治(いえはる)のころ、ノリ商人であった近江屋甚兵衛(おうみやじんべえ)がノリづくりを君津に根付かせた。当時、ノリづくりは江戸湾の中でも品川や大森付近の限られた海でしか行われていませんでした。

◆甚兵衛は養殖にふさわしい場所を房総半島に見つけ試作を続けた。それは一朝一夕のものではなかった。人見村(今の君津市)の名主・守八郎右衛門(もりはちろううえもん)の協力をきっかけにととう小糸川河口において立派なノリを作ることができた。

◆その後ノリの養殖は人見から坂田や大和田、となりの富津、さらには木更津、市原方面にも広がっていったのです。

以下、

森脇孝弘(千葉市史編纂委員会委員)先生の講演(2023/2/18 市民講座)資料からの抜粋です。

【東京湾漁業は江戸時代から盛んではあった。】

…幕末・明治の海苔養殖の始まり…

- ① 近江屋甚兵衛(おうみやじんべえ)幕末の海苔商人。浦安・五井と渡って海苔を試作するも村民の協力を得られず失敗。人見村(君津市)で1821(文政4年)、ついに試作に成功。
- ② 千葉郡の漁業は明治に入り「小晒網(こざらしあみ)」…流しの大網をはること…で鯛(いわし)

が外津(そとうみ)から東京湾に入ってこなくなる。旧幕府はこれを禁ずるが明治維新よりその禁がゆるんでくる。

- ③ 明治30年ころから海苔養殖が始まった。

### 【海苔の「養殖」が盛んになったのはどうして。】

#### …海苔養殖技術の経緯…

- ① 天運任せでない、また投機的事業でもない最も安定した漁業を目指して作られた養殖技術に関する研究会が各地に生まれる。
- ② 合成繊維網の導入 1950年代前半  
\*天然繊維(椰子・シュロ・竹)から合成繊維へ。合成繊維…カネビヤン網…
- ③ ベタ流し(いかだによる漁場の沖への拡大) 1950年代後半  
\*支柱竹をさして網を張ることのできない水深の深い海面にいかだを浮かべて海苔を養殖する技術。
- ④ 人工採苗技術(海苔の胞子を人工的に培養する技術) 1947年。  
\*イギリス人生物学者キャサリン・M・ドリュウが、貝殻に寄生する「糸状体」を発見。海苔の生態が解明される。
- ⑤ 人工採苗ブームが起こる。海苔の豊凶の8割近くまでは種の優劣によって左右される。

### 【戦後における海苔養殖技術の発展】

#### …組織的な会が作られ研究・発表が全国規模で盛んになる。…

- ① 中央水産業会 1943(昭和18年)設立。
- ② 全国海苔増殖協会 1948 設立
- ③ 全国海苔貝類漁業協同組合連合会(全海苔)1950 設立。現在も存続

### 【海が埋め立てられたのはどうして・・・。】

#### …千葉市域沿岸部の埋め立ての歴史…

##### 1940 昭和15年

- ① 戦争の長期化と軍需生産の拡大要請  
\*内務省 臨海工業地帯造成への協力を千葉県に要請。  
\*日立航空株式会社が千葉市今井町地先への進出を決定。1940年
- ② 埋め立ての容認  
\*千葉市・蘇我町今井・蘇我町曾我野の各漁業協同組合が、千葉市当局による繰り返しの説得によって「漁業権保障と引き換え」にこれを容認する方向へ。  
\*1941年2月。千葉市漁協に47万1710円、今井漁協に33万5892円、曾我野漁協に16万5892円が交付。

### 【高度経済成長期の開発・埋め立てと漁業権放棄】

- ① 京葉工業地帯の造成と千葉県・・・東京湾沿岸変貌の始まり・・・  
\*1950年千葉市地先の埋め立て地に川崎製鉄株式会社千葉製鉄所(現・JFEスチール株式会社東日本製鉄所)が進出。

\*1954年、東京電力の進出にともない蘇我町漁業協同組合が補償金1億7000万円で漁業権の一部放棄。

\*これ以降1977年に行徳漁協(市川市)が漁業権を一部放棄するまで、37の漁協が漁業権を放棄。補償金総額は1156億円超。

### ●漁業補償の行い方

- ◆土地造成・漁業補償費を進出予定企業が県に予納し、土地完成後に企業に分譲する方式。
- ◆事業費は県と民間企業が共同で出資し、出資比率に応じて造成地を配分する方式。

### ●漁業補償の実際

- ◆実際は粗収入と経営費の中身をめぐりせめぎあい。それぞれに資料を提示して厳しい折衝になる。① 組合は当初反対する。② 県から条件提示・説明を受ける。③ 組合は態度を軟化したり希望を提示する。④ 補償金額・転業問題について交渉。⑤ 妥結に至る。
- ◆千葉県は遅れた農漁業県であり、県民所得を増やすには企業を誘致して工業化をはかる以外道はない、ゆえに内湾の埋め立ては必要であり、そのためには不安定で生産性の低い漁業には見切りをつけてもらいたい、という論理。

### ●千葉市沿海部の開発と漁業権放棄

#### 【生浜地区】

- ・1950(昭和25)年川崎製鉄の進出決定
- ・1954.4(昭和29)年東京電力から発電所建設計画提示。1954.10年交渉妥結。
- ・1961.12(昭和36)年川鉄の工業用地拡張にともなう埋め立てで、生浜漁協が漁業権を全面放棄。
- ・1965.9年東京電力の発電所用地拡張で蘇我町漁協が全面放棄を決定。

#### 【千葉港中央地区】

- ・1922(大正11)年に内務省による港湾指定。青果・鮮魚の集配の中心の役目。
- ・1950(昭和25)年に川崎製鉄進出後、1954年には外国貿易が可能となる関税法上の開港として指定。1957年に重要湾港。1965年には特定重要湾港。
- ・1963.10、千葉市千葉漁協が漁業権の全面放棄。
- ・大規模な公共港湾としての建設準備、並びに人口増加により膨張の一途をたどる県都千葉市の再開発、県は新たな土地造成事業へ。

#### 【稲毛・検見川・美浜地区】

- ・印旛沼干拓事業…1945.10(昭和20)閣議決定「緊急開拓事業」の一環として、1946.11より農林省によって実施された。…印旛沼の洪水時の水を東京湾へ流すための用水路(花見川)工事。

花見川の掘削土を幕張町地先の海面100haを造成して食糧増産に資する。

- ・1949年事業開始。1952年には陸地寄り8ha完成したところで中止。埋め立ての目的を工業用地の造成に変更。1957年67haの造成計画を立て県事業として開始。
- ・海浜ニュータウンの造成
  - …1966.1(昭和46)友納知事が津田沼から稲毛にかけての海岸を埋め立てて

海浜ニュータウン建設構想を発表。大規模な住宅供給、東京に近い、工業地帯の影響が比較的少ないという理由。

- 1967.3 検見川町漁協が漁業権の全面放棄。
- 1968.6 千葉市稲毛町漁協が //
- 1968.8(昭和 43)今井町漁協は入漁権も含めて全面放棄することになる。
- …1940(昭和 15)年日立航空機の千葉市進出で漁業権一部放棄。
- 1950(昭和 25)年川崎製鉄の進出で漁場を放棄。
- 1951年幕張地先に入漁権を得て以来、この漁場で海苔養殖を営んできた。

### むすびにかえて

…1950年代の海苔養殖技術の発展・研究活動は海苔養殖の下支えとなっていた事。戦時国策の海面の軍事利用計画や県策の京葉工業地帯の創設、人口増加の対応としてのニュータウン建設らの大きな要因で海が失われてきた歴史である。…

### 「京葉工業地域」が出現した

東京の京と千葉の葉をあわせて命名されたのが「京葉」です。京葉道路も JR の京葉線も、千葉県立京葉工業高等学校の創設の理由は「京葉工業地域の工業人育成」と聞きました。

京葉線に乗って東京に向かうと千葉市域沿岸の埋め立ての全貌が見えてきます。「新浦安駅」に着く頃には左に「海浜幕張駅」付近のビル群が見える。ぐるっと回ってきたんだ、と実感します。「舞浜から新木場までの間は右の方角に京浜工業地域らしきものが見えて、正面には海ほたるや大きな船が浮かんでいます。「新木場駅」を過ぎてからは大都会の中を走る鉄道となってしまう、そのうちに水面と同じ目線になり、水中に潜り込むようにして普通の地下鉄になってしまいます。

東京湾沿岸の円周の半分は工業地帯となっている。唱歌にうたわれているような川や海、砂浜も今は消えています。「昔からこのままだよ」と言わんばかりに海岸線には立派な丈夫そうな建物が立ちだかっています。

国策のため、県行政の決定のため、千葉市の意向で浜野・村田・塩田の海岸は消えてしまった。今更海は戻らない。稲毛や幕張には人工の浜が作られている。生浜にも海があったという記憶は大事にしたい。加えて、21世紀は「検証の時代」と呼ばれて新世紀が始まったことを改めて思い出す。  
〈白井・記〉

### 「海の碑」

中央区塩田町の塩田神社には、海埋め立ての記念碑があります。(天満宮)  
碑文の内容は以下の通りです。

(ふるさとすごろく  
漁業編より)



碑の海

海 青き海よ 憶へば遠い祖先の昔から我等が友 そして我等が

(裏面)

生活の大いなる支柱永久にくめども盡きざる泉の如く我等を育み続けてきたその偉業唯感謝あるのみ 我等も亦君の不断の支えを得て永久に生活を樹てんとしてきた 然れども時勢の進展はそれも許さず我等は海と決別の運命にたゞされた即ち千葉県は内湾沿岸地区を埋立てし京葉工業地帯造成と企て原始的産業県より一躍近代工業県に脱皮すべく昭和二十二年八月生浜漁業協同組合に対しその魚場を川崎製鉄株式会社千葉工場拡張用地に充てるべく漁業権放棄の申入れをなしてきた 以来我々漁民は日夜その対策に腐心し祖先の歴史を回顧し子孫の繁栄を思いそして時の流れを考へ最善の策を研究し県及川鉄に対し幾多の交渉を続け遂に昭和三十六年十二月二十五日我等は海との生活に終止符をうつ 青き海 静なる袖ヶ浦 愛着の情切々として胸をうつ惜別の感 人乍ら想いを新たにし祖先傳來の漁業権放棄を決め茲に海と永遠に袂を別たんとする 然りと雖も我等が袖ヶ浦は青き水はたゞえずとも広大な陸地に姿をかへ近代工業推進の基盤となつて我等に幸を与へよ 我等塩田町住民の二十八名は常に 致協力塩田漁業組合を親組合としその指導の許に幾星霜来る年重ねる年も仲秋から翌春迄凍てつく袖ヶ浦寒風吹荒む中美味芳香の名産海苔の生産に勤しみ年間生活の大半を支へ春から秋にかけては賣立て漁業の共同経営或は貝類の採取を業とし浅海魚場開拓の先駆者となり海と共に生き組合の中核をなしてきた 永き歴史と伝統をもつ漁業組合解散に当り茲に敬意を表し碑となさん

篆額 川崎製鉄株式会社副社長千葉製鉄所工場長 植山義久

〔碑石 184×93×15 台石 30×140×65〕

塩田町天満宮境内 今井公子碑文筆写・調査(080628)

千葉市塩田町海苔組合 五十音順

秋山力蔵 鈴木 貞 時田利夫

石橋 博 鈴木文哉 中島 幸

石橋 誠 鈴木泰雄 中村力雄

大堀俊男 須藤 一郎 初芝良郎

鈴木育良 高沢慎祐 初芝養司

鈴木 清 高沢常男 羽田久四郎

鈴木揆逸 高沢 仁 増田重次

鈴木新四郎 田村静作 山崎 正

鈴木武夫 田村竹松

鈴木 正 時田啓蔵

協賛者

生浜漁業協同組合理事 大堀 七平

塩田漁業組合組合長

生浜漁業協同組合監事 鈴木 衛

塩田漁業組合副組合長 時田 熊蔵

企 会計 秋山 力蔵

企 監事 初芝 良郎

昭和卅九年十二月建之

塩田町漁民28名の海に対する感慨深い心情を切々と刻んだ文章に、歴史とはこういうものだと思わずにはられません。同時に当時の川崎製鉄株式会社の心ある協力も伝わります。現在は「JFE スチール東日本製鉄所」となっています、そのホームページでは以下のような見学会も開かれていると掲載されています。

東日本製鉄所（千葉地区）は、首都圏をひかえた京葉工業地域に、戦後、わが国で初めて建設された銑鋼一貫の臨海製鉄所です。広さは東京ドームのおよそ170個分、約766万m<sup>2</sup>というビッグスケール。

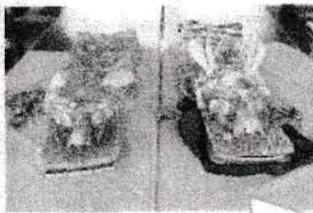
ご見学では、製鉄所のシンボルとしてそびえる巨大な溶鉱炉と、ダイナミックな鉄の製造過程の一部をご覧いただけます。大迫力の製鉄所を、皆様の目や耳、肌で体感してください！

ネットより転載

（白井・記）

椎名伝承文化「雨降りかっこ」の復活

— 地域伝承文化遺産の継承と発展 —



著者 岡本博幸

新刊紹介

「椎名伝承文化『雨降りかっこ』の復活

— 地域伝承文化遺産の継承と発展 — 著者 岡本博幸

●椎名小の羯鼓舞に深くかかわってきた当時の岡本先生（刈田子在住・本会賛助会員）がその研究を一冊にまとめられました。  
●そもそも羯鼓舞とは何か、というところからのご著書です。  
●購入希望の方は岡本様へお問い合わせください。

電話番号 043-292-1881

¥500円

「あとがき」より 平成22年（2010）4月、高梨鉦次さんや椎名小学校森校長先生と羯鼓舞復活開催のことを話し合ってから12年、長い月日が過ぎました・・・出会いが会いを生み、そこから羯鼓舞の歴史・文化・伝承・人間の生き方について学び貴重な体験をすることができたことは大変幸せでした・・・

## 令和4年度を振り返って

本会にとって今年度は15周年という節目を迎えました。今年一年今までの活動を振り返ってまいりました。記念行事も行いました。

コロナウイルスは変異して人類に挑戦してきています。それもそろそろ下火になったと思われませんが人類には大きな影響を残していますし、今後も残す事になるでしょう。

「歴史に学ぶ」とか「歴史は繰り返す」と云われているように、まさに人類の歴史は興味の尽きないところです。地域の歴史も世界の歴史もそこから多くの学びがあるものです。それらをうまく摂取して「幸せに暮らしましょう」